

---

## 全体編

### 1. 受講前後でのAIに対する認識変化

- 受講前の対話型生成AI利用経験  
アンケートの回答者の多くは、「使ったことがない」と回答していました。初めてAIに触れる学生が多かった印象です。
- 対話型生成AIへの向き合い方
  - 受講前は「積極的に使いたい」「どちらかと言うと使いたい」という姿勢がほとんどで、興味や関心が高かった様子がうかがえます。
  - 受講後はほぼ全員が「積極的に使いたい」あるいは「どちらかと言うと使いたい」に変化し、実際に体験することで「AIは意外と使いやすい」「試してみたい」という気持ちがさらに高まったと考えられます。

### 2. 具体的な活用イメージ

- 学習面での活用
  - 「英語の添削」「問題を解いてもらい、基礎を固める」「自分のレベルを把握する」といった学習補助への活用が、具体的な例として挙げられました。
  - 「自分の考えやアイデアを深めるための参考にしたい」という声もあり、単に解答を得るだけでなく、“思考の補助”としてAIを使ってみたいと感じた学生が多いようです。
- 初めてAIを使う際の驚きや楽しさ
  - 「初めて使って面白いと感じた」「思っていたよりも楽しくAIに興味湧いた」という感想が多く、AIとのやり取り自体に新鮮さや面白みを感じている様子がうかがえます。
  - “AI＝難しい・とっつきにくい”というイメージを持っていた学生もいたようですが、「意外と気軽に使えそうだ」という印象に変わった意見が見られました。

### 3. 今後の可能性と課題

- 積極的に活用する意欲
  - アンケート回答者の中には、「たくさん使ってみようと思う」「自分の考えを出すための参考に使いたい」と、今後も継続的にAIを活用する意欲がうかがえます。
  - 具体的な学習領域としては「英語学習」「課題やレポート作成」「理解度チェック」など、多岐にわたる可能性が示唆されました。
- 注意点や留意事項(推察)

- アンケート内では明記されていませんが、対話型生成AIの回答をそのまま受け取るだけでなく、内容を確認・取捨選択しながら使う必要がある点も今後の課題となると考えられます。
  - 学生が「自分の思考を深める」「基礎を固める」といった目的でうまく利用するためには、“AIの回答を踏まえた再検討”や“事実確認”といったステップが重要になるでしょう。
- 

## まとめ

本アンケートからは、対話型生成AIを初めて触れた学生が多く、講座受講前から「使ってみたい」という意欲が高く、受講後にはさらに具体的な活用イメージを得たことがわかります。特に以下のポイントが印象的です。

1. 対話型生成AIへの抵抗感が低い: もともと「使いたい」と思っていた学生が大半で、実際に体験することで「意外と使いやすく役立ちそうだ」と感じた声が増えています。
2. 具体的な学習活用への期待: 英語学習や問題演習・添削など、学習面で活用するアイデアが多く、思考を深めたり自分のレベルを客観的に把握したりする手段としてAIを取り入れたいという意見が目立ちます。
3. 今後の展望: 多くの学生が継続的に使う意欲を示しており、さまざまな教科・分野でのレポートやアイデア出し、自己学習の補助など、多様な場面でAIを導入する可能性が高いと考えられます。